

○事業所名	APIMo中山教室[放課後等デイサービス]			
○保護者評価実施期間	R7年 7月 1日 ～ R8年 6月 30日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36	(回答者数)	20
○従業者評価実施期間	R7年 7月 1日 ～ R8年 6月 30日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数)	3
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 7月 10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	研修体制、会議制度	事業所内研修は、毎年度当初に年間研修計画を作成し、計画に基づいて実施しています。今年度は全9回の実施を予定しており、事業の質の確保・向上、人材育成、法令遵守を目的として、計画的に研修を行っています。基礎研修では、放課後等デイサービスの目的や法的根拠、発達障害や特別な支援を必要とする子どもへの理解、個別支援計画の読み方や支援への活かし方などについて、座学に加え、グループワークを取り入れた事業所独自の研修を実施しています。また、安全管理（事故防止・感染症対策・災害時対応等）や虐待防止・身体拘束等の適正化・権利擁護など、法令で実施が求められている研修・訓練についても、定められた実施回数を遵守し、全職員を対象に継続的に実施しています。	今後は、これまで以上に地域の研修（自治体・振興会主催の研修等）への参加や、民間団体・研修機関が実施するテーマ別研修（行動支援、虐待防止等）、児童発達支援管理責任者研修や強度行動障害支援者養成研修などの指定研修について、職員一人ひとりの経験やキャリアステージに応じて積極的に受講機会を設け、専門性の向上に努めてまいります。また、研修で得た知識や実践事例を事業所内で共有し、日々の支援に活かすことで、組織全体の支援力向上につなげてまいります。さらに、保護者様を対象とした研修会や情報提供の機会を設けるなど、ご家庭と事業所が連携しながら、お子様にとってより良い支援環境を整えられるよう積極的に企画・実施してまいります。
2	相談への迅速な対応	法人本部、管理者、児童発達支援管理責任者が常に連携を取り合い、ご相談やご要望にもすぐにご対応できる体制があります。緊急性のある内容にはその場で判断・調整を行えるなど、現体制では法人本部と現場の密な連携により、組織として支援をバックアップできる運営が可能となっております。また、常勤職員・非常勤職員を問わず、日頃から情報共有を大切にし、申し送りやケース会議、日々のコミュニケーションを通して、利用児童の状況や支援方針を共有しています。全職員が共通の支援方針のもとで連携し、一貫性のある支援を提供できるよう努めています。	今後は、法人本部・管理者・児童発達支援管理責任者・常勤職員・非常勤職員がこれまで以上に密に連携し、情報共有やケース検討を充実させることで、より迅速で質の高い支援体制の構築に努めてまいります。また、職員一人ひとりが相談しやすい環境づくりや、日々の振り返りを継続し、支援方法の改善や統一を図ることで、組織全体の支援力をさらに高めてまいります。「困ったときにすぐ相談できる」「安心して任せられる」と感じていただける事業所を目指し、保護者様や関係機関との連携を大切にしながら、迅速かつ丁寧な対応を継続してまいります。
3	運営規定の遵守や個別支援計画に沿った支援体制、各種マニュアルの整備	運営規程や各種マニュアルについては事業所内に常備し、職員がいつでも閲覧できる体制を整えています。また、事業所内研修や個別支援計画会議を定期的に実施し、マニュアルの読み合わせや事例検討を通して、内容の理解と実務への落とし込みに努めています。支援記録やモニタリングについても、規程に基づいた適切な手順で管理するとともに、児童発達支援管理責任者が作成する個別支援計画に沿って、支援の目的・方法・担当を職員間で共有し、一貫性のある支援の提供に努めています。	開所2年目を迎え、1年目の運営を通して見えてきた課題や改善点については、一つひとつ着実に見直しを行い、より良い事業所運営につなげてまいります。一方で、これまで積み重ねてきた支援や職員間の連携、保護者・関係機関との信頼関係など、強みとして培われてきた部分については、さらに伸ばし、事業所全体の支援力向上へとつなげていきたいと考えています。職員一人ひとりが経験や研修での学びを日々の支援に活かし、「判断力」「専門性」「連携力」をさらに高めることで、ご家庭や関係機関からより一層信頼される事業所を目指し、継続的な改善と質の向上に努めてまいります。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	第三者等の外部評価、スーパーバイザー	開所2年目を迎え、近隣の支援機関や学校との連携も少しずつ増え、情報共有や支援方法の検討など、地域とのつながりが着実に広がってきています。また、自治体や関係団体が実施する外部研修への参加機会も増え、他事業所や専門職との交流を通して、外部からの助言や専門的な知見を支援に取り入れる機会が増えてきました。今後は、地域ネットワーク会議や事業所連絡会への継続的な参加に加え、外部研修等で築いた関係性も活かしながら、第三者による助言や専門的スーパービジョンにつなげる体制づくりを進めてまいります。外部の視点を積極的に取り入れることで、支援の質の向上と職員の専門性向上を図り、より良い事業所運営につなげてまいります。	開所2年目を迎え、管理者・児童発達支援管理責任者を中心に、近隣の支援機関や学校との連携を積極的に進め、情報共有や支援方法の検討を行う機会が増えてきました。また、自治体や関係団体が実施する外部研修へ継続的に参加し、他事業所や専門職との交流を通して、新たな支援方法や専門的な視点を学び、日々の支援へ反映するよう努めています。一方で、第三者による定期的な外部評価や専門的スーパービジョンを受ける体制については、まだ十分とは言えない状況です。今後は、外部研修や関係機関との連携を通じて築いたネットワークを活かし、専門職や第三者からの助言を積極的に取り入れる機会を増やしていきます。また、支援内容を客観的に振り返る仕組みを整え、職員間で学びを共有しながら、支援の質の向上と職員の専門性のさらなる向上につなげてまいります。

2	支援前後の共有や擦り合わせ、プログラムのチーム立案	[課題] ・活動・業務・担当に関する内容だけでなく、事務的な予定や研修、児童の様子などについても、職員間で積極的に情報共有を行う必要がある。現在は翌日に簡単な共有を行っているが、情報量が不足しているため、児童の支援に関わる重要な情報を確実に共有できる体制づくりが課題である。 [振り返り] ・現在も情報共有は行っているものの、内容が簡易的になり十分に伝わっていない場面があることが課題として挙がった。今後は共有する内容を整理し、活動・業務だけでなく児童の様子や事務連絡等も含めて、必要な情報を確実に共有できる体制づくりを進めていきたい。 [プログラムのチーム立案について] ・現在APIMoでは、常勤・非常勤ともに児童指導員等がそれぞれ担当プログラムを持ち、企画から実施まで責任を持って取り組んでいます。担当職員のためのルーティンワークとならないよう、職員間でアイデアを共有するとともに、管理者・児発管への事前相談や確認、修正を行い、チームで企画・立案することを改めて確認しました。また、連携事業所からの活動内容や支援方法に関するアイデアも積極的に取り入れ、各事業所の実践を参考にしながら、より質の高い支援につながるよう連携を図っています。これらを踏まえ、現行のプログラム内容をさらにブラッシュアップできるよう、企画書の作成方法や事前周知事項の見直しについて検討を行いました。	情報共有の内容や方法を見直し、活動・業務だけでなく児童の様子や事務連絡、研修内容等についても必要な情報を適時・適切に共有できる仕組みづくりを進めます。また、担当者だけで企画を進めるのではなく、職員間での意見交換や管理者・児発管による確認、連携事業所との情報交換を継続し、多角的な視点を取り入れながらプログラム内容の充実を図ります。あわせて、定期的な振り返りを行い、支援内容や運営体制を継続的に改善することで、より質の高い支援の提供に努めてまいります。
3	地域連携や幼稚園、保育所等各機関との連携、ペアトレや家族交流	地域施設への外出や外遊び等を通して地域との交流を図るとともに、保護者会の開催や日々のコミュニケーションを大切にし、お子様の様子を共有しながら家族支援につながる取組を行っています。児童・保護者・地域とのつながりを大切にした支援を心掛けています。	保護者支援においては、年に2回の機会（①保護者会での交流、②8月に予定しているふれあい祭り）を通じて、保護者同士が交流できる機会を設けております。しかし、今回実施した事業所評価アンケートでは、ペアレント・トレーニングのような学びの場や、保護者同士が情報共有や悩みを相談できる交流の機会を増やしてほしいという意見をいただきました。そのため、交流行事を実施する際には、保護者同士がゆっくりと話し合える時間をこれまで以上に確保できるよう、プログラムや進行方法を工夫してまいります。また、8月に開催予定のふれあい祭りでは、子どもたちが夏休み期間に日々の活動の中で練習してきた成果を、多くの保護者の皆様にご覧いただける機会として企画しております。子どもたちの成長や頑張りを直接感じていただくことで、事業所での支援への理解を深めていただくとともに、保護者同士の交流のきっかけにもつなげていきたいと考えています。

	その他、アンケート結果やご要望等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	昨年度退職された先生が多く、さらに新規事業所も出来たので保護者としては先生の数足りているのか少々不安になりました。	昨年度は退職者がいたことに加え、今年度で新規事業所の開所もあつたため、人員体制についてご心配のお声をいただきました。当事業所では、常勤・非常勤職員を含め、国の配置基準を満たした必要な人員を確保し、安全かつ継続的に支援を提供しております。また、子ども一人ひとりと丁寧に関わる時間を大切に、安心して過ごせる支援体制の維持に努めています。一方で、より充実した支援体制を維持・向上していくためには、職員体制のさらなる充実も重要であると考えています。そのため、引き続き積極的な求人活動を行い、人材確保に努めるとともに、新任職員への育成や既存職員への研修を継続し、職員一人ひとりの専門性向上にも取り組んでまいります。今後も、十分な人員体制の維持と質の高い支援の両立を図り、子どもたち一人ひとりに寄り添った支援を提供できるよう努めてまいります。
2	時折お友達との付き合いで悩むことがあり、通所を渋るような発言をすることがあります。ただその際には先生に相談をしてみることが良い旨を伝え、今のところ実践できており、必要なタイミングで先生の介入があるため通所ができています。	お友達との関係性の中で悩みや不安を感じた際にも、安心して職員へ相談できる環境づくりを引き続き大切にしていまいります。子ども一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、小さな変化やSOSのサインを見逃さず、必要なタイミングで仲介や助言を行うことで、安心して通所できる環境を整えてまいります。また、友達との関わり方やコミュニケーションについては、日々の活動やSST（ソーシャルスキルトレーニング）などを通して、相手の気持ちを考える力や、自分の思いを適切に伝える力を育めるよう支援を継続してまいります。今後も、「APIMoは楽しい!」「今日もAPIMoに行きたい!」と子どもたちが感じられるよう、一人ひとりの思いや頑張りに寄り添い、安心感と楽しさのある支援を提供するとともに、保護者の皆様とも情報共有を密に行いながら、安心して通所を継続できる環境づくりに努めてまいります。